

「マブハイ」の国から

秒読み 介護福祉士・看護師受け入れ



「なぜ、日本ではお年寄りが家族の世話を受けられないのか分かりますか」

3月なかば、マニラ首都圏に次ぐフィリピン第2の都市、ダバオにあるミンダ

ナオ国際大学であった特別講義。東京都内の特別養護老人ホームで働く日本人の

介護福祉士の問いかけに、学生ら約100人がじっと耳を傾けた。

「少子高齢化で5分の1

が65歳以上。2030年には3割になります。70代の人

親の介護が同時期だったりという例もあるんです」

老人ホームの一日を追ったスライド上映で、機械操作によ

すのまま入浴する姿が映し出されると、学生からは驚

めらかな日本語だった。今年8日、同国際大は創立して初めての卒業式を迎えた。だが、社会福祉学科

3 カワイソウ

孤独な「老い」に衝撃

きの声も上がった。

質疑応答では、真っ先に

4年生のグレース・フォーモン(25)が手を挙げた。

「日本はタイからも介護福祉士を受け入れるという話がありますが、日本人にとってフィリピン人の介護とどっちがいいですか」。な

は、介護福祉士の需要はな

いに等しい。

同国際大は、「日本フィリピンボランティア協会」(JPVA、東京)や地元の日系人らによって4年前に創立された。1学年100人弱と規模は小さいが、日本語を必修科目にすえ、

フィリピンの大学で唯一といわれる社会福祉学科を設けた。介護のプロとして日本

で働くことを想定し、政府認定の専門学校で展開されている介護福祉士養成カリキュラムを超えた教育方

めらかな日本語だった。

針という。

例えば、老人ホームで使う用語をとりこんだ「介護

の日本語」というテキストを日本人の学者とともに作

製。福祉学科の卒業生のうち、グレースら4人は、日常の簡単な読み書きができるレベルとされる日本語検定3級に合格している。

日本の施設の実態を理解

できるよう、日本から人を招くだけでなく日本への研修旅行で介護の実習もさせ

ている。JPVA会長で寺の住職でもある網代正孝(67)は「フィリピン人による介護がうまくいくかどうか、頭で考えても仕方ない。実践を積んで問題があれば直せばいい」と話す。

3月なかばの特別講義の

あと。「介護の仕方が間違っていたら、遠慮しないでその場で注意してほしい。フィリピン人は気にしない性格だから」。実習経験のある彼女たちから介護のイ

カハのレベルを超えた、そんな注文も飛んだ。グレースも昨年5月、「日本」を体験してきた。そこで見たのは、フィリピンでは想像もできない孤独なお年寄りの姿だ。

網代の引率で訪ねた家には身寄りのないお年寄りの女性が末期がんに侵されてひとり、布団に横たわっていた。グレースらに向かって「水をください」と声をしぼり出すと、嘔吐した。

衝撃的な光景に立ちつくすだけだった。「カワイソウ」。思い出すだけで涙がこぼれる。フィリピンなら誰かが常に付き添っているはずなのに、私たちが来るまで、なぜ世話をする人がいないのか。そう思うと同時に、自分たちが必要とされているわけが、よりいっそう深く理解できた。

学んだことを生かせる日が来るのか、グレースはタイなど他国の動向も気にしながらちよっぴり不安げ。でも「日本に行けないのなら、来てもらえばいい。いずれは日本の高齢者を迎える施設をつくりたい」。持ち前の明るさであっけらかんと言った。(敬称略)



日本人の介護福祉士に質問をぶつけるグレース。日本の介護施設で働くことよ

って、日本人が抱くフィリピン人のイメージを変えたという。ダバオ市で

ある彼女たちから介護のイ

カハのレベルを超えた、そんな注文も飛んだ。グレースも昨年5月、「日本」を体験してきた。そこで見たのは、フィリピンでは想像もできない孤独なお年寄りの姿だ。